

# 地域ケア圏域会議 取組状況と課題

圏域	日時・会場	参加者・数	テーマ	検討事項	検討結果	検討を通じて把握された課題
練馬	平成29年 2月22日(水) 14:00~16:00 ココネリ・ホール	民生委員、警察署、主任介護支援専門員、介護支援専門員、介護事業所、敬老館、地域集会所、体育館、高齢者センター、社会福祉協議会、行政職員、高齢者相談センター本所・支所 計 81名	高齢者の見守りと居場所づくり～「地域のみたて（診断）をしよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ごとの高齢者人口等に関する統計データをもとに、支所単位で地域の特性や課題、強みなど地域の状況を把握する。</li> <li>・地域の状況を踏まえ、今後地域に何が必要なかを協議し、地域づくりの具体案を提示する。</li> <li>・各支所で開催した地域ケア個別会議の内容や地域の課題等について報告し、地域の関係者と共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅から遠い地域での新たな交流の場の必要性や、大学が多い地区での学生の活用など、地域の特性を生かした地域づくりのアイデアが各グループから提案された。</li> <li>・空き店舗等を活用したカフェの運営など、さらなる地域コミュニティ、交流の場づくりの必要性が確認できた。</li> <li>・参加者の所属や活動を通じた視点が盛り込まれた意見が出ており、多角的な地域のみたて（診断）ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町会の高齢化や住民同士のつながりの希薄化などが進んでおり、こどもから高齢者までが集える世代間の交流の場づくりなど、地域コミュニティ再生の取組が必要である。</li> <li>・空き店舗等を活用した居場所づくりなど、独居や認知症等のリスクの高い高齢者を地域で支えるネットワークの充実が必要である。</li> <li>・社会的交流が不得手な独居高齢者（特に男性）に対し、地域の見守りや居場所づくりによる孤立の防止を図る必要がある。</li> </ul>
光が丘	平成29年3月14日 14:00~16:30 光が丘区民センター多目的ホール	自治会、介護支援専門員、薬剤師、社会福祉協議会、障害支援相談員、三療師、行政職員、行政職員、高齢者相談センター本所・支所 計 91名	認知機能の低下があるにも関わらず、医療につながらない方の対応について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症疾患医療センターの役割や練馬区の認知症支援の実際を周知する。</li> <li>・高齢者の認知症受療時における課題を抽出し、支援方法の検討や新しい資源・施策の提案を行う。</li> <li>・各支所で開催した地域ケア個別会議の内容や地域の課題等について報告し、地域の関係者と共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症疾患医療センターとの連携方法について確認し、練馬区の認知症関連の支援内容について地域関係者へ周知することができた。</li> <li>・地域住民の認知症に対する理解がまだまだ不十分であり、地域で認知症の方を見守り、安心して生活を送る環境が整っていない状況が確認された。</li> <li>・認知症に関わる医療職、福祉職と住民が一体になって地域支援を行う場が必要であり、地域が一体になって行える認知症の勉強会開催などの提案がされた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体での認知症に対する理解がまだまだ不十分であり、多職種における認知症支援の連携について考える機会を増やす必要がある。</li> <li>・自治会や老人会を中心に認知症に対する理解が深まる勉強会の開催や地域住民が気軽に立ち寄れる相談先、こども食堂のような場を増やすなど、住民の認知症に対する理解の促進を図り、地域支援の体制を深める必要がある。</li> <li>・認知症治療を拒否する方が多く、なかなか医療につながらない状況があることから、総合的な支援を行う必要がある。</li> </ul>
石神井	平成29年3月2日(木) 10:00~12:00 石神井庁舎会議室	民生委員、自治会・町会、介護支援専門員、介護事業所、社会福祉協議会、防災学習センター、高齢者相談センター本所、支所 計 118名	集合住宅のいま～見守りのあるコミュニティ（我が事・丸ごとの地域づくり）をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が防災の意識を高めて、自助に活かせるように知識を習得する。</li> <li>・集合住宅の集会所の活用について検討する。</li> <li>・高齢者の見守りへの取組について検討する。</li> <li>・各支所で開催した地域ケア個別会議の内容や地域の課題等について報告し、地域の関係者と共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都営住宅における防災活動等の行事については、住民の高齢化に伴い縮小傾向にあることが確認された。中にはすでに中止となっているところもあることも判明した。</li> <li>・集会所は、一般の方も利用できることが確認されたが、利用方法については、それぞれの住宅ごとに規定があることも確認できた。</li> <li>・集会所の活用方法や活動内容について、住民に周知されていない現状も確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合住宅の集会所で実施されている既存の活動内容について、入居者や近隣住民に対するさらなる周知が必要である。</li> <li>・集会所の空き時間を利用して、高齢者の居場所づくりを図るとともに、運動やカフェなど多様な活動の場をつくる必要がある。</li> <li>・地域コミュニティの観点から、集合住宅の集会所等を、高齢者だけでなく、子どもや若い世代も含めた交流の場とする必要がある。</li> </ul>
大泉	平成29年3月3日(金) 14:00~16:30 勤労福祉会館集会室	民生委員、自治会・町会、老人会、主任介護支援専門員、介護事業所、ボランティア地域福祉推進センター、見守りサロン、NPO法人地域団体、リハビリ職団体、敬老館館長、地区区民館館長、行政職員、高齢者相談センター本所、支所 計 78名	大泉地域におけるネットワーク作りの方法を探る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア個別会議から抽出された、ネットワーク作りの方法に対する課題について取り上げ、支援方法の検討や、資源の共有、開発について探る。</li> <li>・各支所で開催した地域ケア個別会議の内容や地域の課題等について、地域の関係者と共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各支所で開催した地域ケア個別会議の内容や地域の課題等について共有する事ができた。</li> <li>・練馬区における生活支援体制整備事業や、大泉地域で活動されている団体の情報等について共有するとともに、顔の見える関係作りを行うことができた。</li> <li>・情報を共有する事で、地域におけるネットワークや支え合いの必要性について認識することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは地域を知ることが必要であり、社会資源等についてすぐに分かるようなマップづくりができると良い。</li> <li>・リハビリ職からヘルパー等への助言を行うなど、リハビリ職との連携により介護予防につなげていくための仕組みが必要である。</li> <li>・ケアマネジャーやヘルパーが地域のサロン活動等に顔を出すなど、定期的な情報共有の場を持つことが必要である。</li> <li>・地域のサロン拠点などに高齢者だけでなく、子育てをされている方にも来てもらえるような工夫が必要である。</li> </ul>